

●鶴枝川の河川整備

西ケ谷議員 令和元年の
浸水被害を契機に、河川管
理者である県は、一宮川本
川の中流域で洪水を流せる
ように断面を拡げる河川整
備を進め、本川の河川整
備はかなり進んだと感じる。
今回は、一宮川に流れ込
む支川について質問したい。
昨年11月に開催された一
宮川流域治水協議会で座長

一宮川
支川の整備急ぐ

の加藤・東京大学教授は、
「これまで工事の予定がなか
った鶴枝川は、河川からの
氾濫リスクが高いため検討
が必要」と提言された。
そこで同。鶴枝川の河
川整備は、今後どのように
進めるのか。
県土整備部長 県では、
令和5年の浸水被害を踏ま
え、有識者で構成する検証
会議を設置し、令和2年度

●豊田川の浸水被害軽減

西ケ谷議員 同じ支川の
豊田川は、土のうが置かれ
たままで、上流では法面に
竹が繁茂し、多くの市民が
心配している。
豊田川の浸水被害軽減に
向け、どのように取り組ん
でいくのか。
県土整備部長 豊田川で
は、令和元年の災害を踏ま
え、河川本来の流下能力を

め、調査設計を進めるとと
もに、地元調整を行い、速
やかに工事着手できるよう
取り組んでまいります。
西ケ谷議員 同じ支川の
豊田川は、土のうが置かれ
たままで、上流では法面に
竹が繁茂し、多くの市民が
心配している。
豊田川の浸水被害軽減に
向け、どのように取り組ん
でいくのか。
県土整備部長 豊田川で
は、令和元年の災害を踏ま
え、河川本来の流下能力を

●一宮川流域の浸水対策

西ケ谷議員 想定を超え
るような雨に対して、一宮
川流域の浸水対策をどのよ
うに考えているのか。
●一宮川流域の浸水対策
西ケ谷議員 想定を超え
るような雨に対して、一宮
川流域の浸水対策をどのよ
うに考えているのか。

●一宮川流域の浸水対策
西ケ谷議員 想定を超え
るような雨に対して、一宮
川流域の浸水対策をどのよ
うに考えているのか。

九十九里地域の
水道事業体

令和8年に統合

2月県議会・一般質問

安全・安心なふるさとづくりの情熱を注ぐ茂原市選出の
西ケ谷正士県議は、2月県議会一般質問に登壇。九十九里
地域の水道事業体統合問題、一宮川流域の浸水対策を始め、
救急医療体制の整備、農業問題等について当局の考えをた
だしました。今号では、その概要をお伝えします。

●九十九里地域への効果
西ケ谷議員 九十九里・
南房総地域の用水供給事業
体の統合は、九十九里・南房
総の21市町村約50万人に及
ぶ大規模なものである。
昨年の統合協議会では、
基本計画と基本協定の合意

が得られ、1月27日には、令
和8年4月の統合を確約す
る統合基本協定が締結され
て、統合実現に向け大きな
前進となった。
九十九里・南房総地域の
用水供給事業体の統合によ
って九十九里地域にどのよ

うな効果が見込まれるのか。
知事 統合基本計画では、
九十九里地域において、統合
後20年間で約577億円の
事業費を見込み、3つある浄
水場の電気・機械設備や管路
の老朽化対策、耐震化などに
取り組むこととしています。
これらの取組により、管路
の耐震適合率が現在の78・
3%から100%となるほか、
浄水場の耐震化率も大幅に
向上し、加えて浄水場間をつ
なぐ水道管を整備して相互
の補完体制を構築するなど、
水道施設の強靱化を図って
まいります。
また、国・県・構成市町村
の財政措置により、統合しな
い場合と比べた水道用水供
給料金の上昇抑制額を統合
後10年間で約17億円と見込

むなど、施設や運営面での
統合効果を活かし将来に渡
る安定給水の維持・確保を
図ってまいります。
●九十九里地域・南
房総地域の統合につ
いては、今後、両企業と実
務的な調整等が行われると
思うが、令和8年4月の統合
に向けて着実に準備作業を進
めていただくよう要望する。

●今後の統合・広域化
西ケ谷議員 九十九里地
域の料金水準は、県営水道
に比べ約1・5倍高い。
今回の統合では、用水供
給料金の上昇幅が抑制され、
将来的な格差は正にも資す
ると思うが、県内の水道料
金の格差は続く状況で、水
道事業体の統合・広域連携
を進める必要があると思う。
今後の県内水道事業体の
統合・広域連携をどのよう
に進めて行くのか。
総合企画部長 県内には、
水源が乏しく地理的な要因

●県単位の用水供給事業

西ケ谷議員 課題解決に
は、事業を県単位で統合す
べきと考えるがどうか。
総合企画部長 県では、
広域自治体である県が用水
供給を担うという考え方に
基づき、今回の事業体統合
に取り組んでおり、引き続き
次の統合・広域連携に向け
た研究を進めてまいります。
●将来的な方向性を
もって、統合・広域連
携の取組をしっかりと進め
ていくよう要望する。

●将来的な方向性を
もって、統合・広域連
携の取組をしっかりと進め
ていくよう要望する。

西ケ谷まさしプロフィール	
経歴	
・1956年	茂原市山崎に生まれる
・1968年	茂原市立二宮小卒
・1971年	茂原市立富士見中卒
・1974年	県立一宮商業高校卒
・1978年	駒沢大学卒
	茂原市役所に奉職し 経済環境部長などを歴任
・2020年	茂原市議会議員選挙当選(2期)
・2023年	県議会議員選挙当選
現職	
・商工労働常任委員会委員	
・茂原市ソフトテニス連盟会長	
・茂原市体育協会副会長	

県平均より13分遅い長生郡市

救急の地域差解消を

救急救命士の活用促進も

●夜間の救急搬送体制

西ヶ谷議員 救急搬送の時間は年々長くなり、中でも医療資源の少ない地域でその傾向は顕著である。

県が令和5年に行った救急実態調査によれば、救急隊の覚知から病院収容までの所要時間は、県平均が53・22分、長生郡市は66・42分

と、約13分の差があった。

救急搬送にも地域によって格差があり、何らかの対策を講じる必要があると思う。

そこで伺う。医療資源に限られた地域で、特に夜間の救急搬送体制を強化すべきと思うがどうか。

保険医療担当部長 医療資源が限られている中で、救

急搬送体制の地域差を埋めるために、県では、ドクター

ヘリやドクターカーを活用することで、重傷者を短時間で搬送できる体制を構築しているところです。

ドクターヘリの夜間運航は、安全確保の観点から課題が多く、夜間はドクターカーの役割が大きくなっています。

長生の森公園に期待

●公園整備の進捗状況

西ヶ谷議員 長生の森公園は、自然の地形や豊かな緑を保全しながら、長生・夷隅地域のスポーツの拠点として健康づくりとレクリエ

救命士法の改正によって、救急救命士は重度傷病者が医療機関に搬送されるまでの間のみならず、医療機関に到着し、当該医療機関に入院するまでの間においても、救急救命処置を行うことが可能となり、医療機関に勤務する救急救命士の活動の範囲は広がっています。

一方で、医師の具体的指示が必要な救急救命処置を実施するために、法令で定められた研修を受講した上で、

個別に都道府県の認定を受ける必要があります。本県でも、医療機関に勤務する救急救命士が当該制度における認定を受けることができるよう準備を進めており、円滑な制度運用に努めてまいります。

●医療機関の救急救命士
西ヶ谷議員 医療機関に勤務する救急救命士の活動を広げる上での課題は何か。

保険医療担当部長 医療機関の御意見では、救急救

更に今年度からは、野球場の利便性の向上や地域の防災拠点としての機能強化の観点から、ナイター照明設置に着手しています。

●今後の公園整備
西ヶ谷議員 今後の整備の予定はどうか。

都市整備局長 本公園は、圏央道の茂原長柄スマートインターチェンジが開通したことでアクセス性が向上し、広域的な集客により利用者の増加が見込まれます。

今後は、アスレチックも楽しめる芝生広場のほか、キャンプ等が楽しめる体験広場の整備等を今後計画しています。

引き続き、一層魅力ある公園となるよう、地元茂原市と連携の上、計画的な整備に努めてまいります。

●要望
野球場のナイター照明の設置については、早期完成をお願いしたい。

小規模農家 確かな支援望む

●小規模農家への支援

西ヶ谷議員 県は、多面的機能を持ち小規模農家

等が支える地域農業の維持・発展に向けた支援に、どのように取り組んでいるのか。

知事 農村地域の過疎化、高齢化、混住化等の進行に伴う集落機能の低下に伴い、農業生産活動や地域の共同活動などにより支えられている農業・農村の有する多面的機能を将来にわたって

維持することが困難となると懸念されています。

このため県では、国の交付金を活用し、農業者や地域住民などが共同して取り組む農村地域の保全活動を支援してきたところで

あり、今年度の計画では、水路の泥上げや草刈りなどの基礎的な保全活動が、約3万4千haの農地で547の団体により実施される予定で

域で支えることは、担い手農家による営農継続への後押しにもなることから、制度の

周知徹底も含め、今後とも市町村と協力しながら、地域農業の維持・発展に向けて支援してまいります。

●次期計画での位置づけ

西ヶ谷議員 次期振興計画の見直しの中で、小規模農家の支援についてどのように位置づけていくのか。

農林水産部長 現行の振興計画では、小規模農家を地域の農業や集落機能を支える重要な担い手として位置付け、新たな特産品の生産や加工品の開発などの技術支援を行ってきたおり、現在、次期計画の策定に向け、これまでの成果や課題の整理を進めております。

具体的には、①水田を活用したレンコン等の栽培による収益性の向上②中山間地域の立地を生かした花木位置付けを要望する。

令和5年の豪雨災害により茂原市内の災害廃棄物を受け入れていた多目的広場は、市と協力し、秋以降の利用再開に向けた準備を進めています。

●要望
野球場のナイター照明の設置については、早期完成をお願いしたい。

●県政や茂原市の街づくりに関する相談をお気軽にどうぞ

西ヶ谷まさし 県事務所

〒297-0061 茂原市山崎 838-1

TEL・FAX 0475-24-8881

多目的広場は、災害廃棄物の仮置き場利用させて頂き、供用が遅れたこと、大変申し訳なく思うが、今後整備をよろしく願いたい。

●要望
救急救命士の業務範囲の拡大について最大限に活用できるように要望する。

命士が行える業務や救急救命処置の範囲を課題とする声がありました。国においては、救急救命士が実施する救急救命処置を議論する場を設置し、安全性や必要性等について検討を行っているところであり、県としては、国の動向を注視してまいります。